

統合保育園サンクト・ヨーンスビヤグ訪問

<Børnehuset Sankt Jørgensbjerg>

お話：園長 Ms. Jeanette Bendtsen

レポート：酒井いづみ

★はじめに

統合保育園サンクト・ヨーンスビヤグでは、乳児（0～2歳）33名の3グループ・幼児（3～5歳の縦割りクラス）44名の2グループ、計77名の園児がおり、保育士が12名、園長が働いています。

- ① 勤務について、月～金曜日の6時30分～17時。勤務時間は30時間、パート職員27～37時間。1週間に1回、17～20時に会議を行っています。
- ② 幼児クラスは、1週間に2回リラックスタイム（音楽を聴きながらマッサージを受ける）を設けています。
- ③ 1週間に1度、園外の活動を行なっている。
- ④ 行事は、6つのテーマを主に2か月に1度行なっています。例、11・12月はクリスマス。
- ⑤ 食事は園内で作り提供しています。アレルギー児には除去食を作っている。
- ⑥ 個別のおたより帳がなく、各クラスごとに連絡簿が用意され、その日の出来事などを保育士が記入して保護者に伝えています。

★保育園の一日（幼児）

7：30 まで	乳幼児合同保育、
9：30	ミーティング
11：00	昼食 園庭遊び
14：00	おやつ 園庭遊び
18：00～	乳幼児合同保育



★保育方針

- ① 乳児は、自分のことは自分で出来るようにモチベーションを高める。争いからさける力を身につける。
- ② 幼児は、友達との関わり解決力を身につけ、社会の一員として教育している。
- ③ 能力の高めるためには、子ども一人ひとりをよく知る必要がある。

★工夫された保育室

乳児クラスの3部屋でまず目に入ってきたのは、壁面に飾られた子どもたち一人ひとりの家族との写真が一人一つの額いっぱい写真が飾られていたことです。これは、子どもたちに保護者が見守っていること・側にいるという安心感が得られるように取り入れています。そして、カラフルなマットや小さなソファの近くには絵本があり、くつろげる空間になっています。

幼児クラスは2部屋あり、室内に階段が設置されています。これは、小学校で階段

があるので上り下りの練習も兼ねて設置しています。

デンマークの保育園や幼稚園を訪問させていただいた中で感じたことは、デンマー

★腰痛予防対策

乳児室にはトイレとおむつ交換台が完備されており、おむつ交換台はボタンで上下し、高さの調節が出来ます。保育者が自分の背丈に合わせて腰高を調節することで腰痛予防対策にもなっています。また、おむつ交換台の近くには踏み台があり、自分で上がりたい子どもへの配慮もされています。



★緑に囲まれた庭

広々とした園庭には木々に小さなトンネルがいくつもあり、それは子どもたちの通り道でした。トンネルを抜けるとログハウスがあったり、ベンチが備えられています。ブランコには柵がなく、高さ2メートル近くあるアスレチックに自由に登り楽しんでいます。地面は全面、砂で敷き詰められています。

★国が考える教育カリキュラム

乳児・幼児保育施設「教育カリキュラム」は、総体的人格形成、社会的能力の発達、体と運動、自然と自然現象と知る、及び文化的表現及び価値を学ぶ、の6項目で構成されています。

★感想

クは国が決めたカリキュラムにのっとり保育を行なっているが、日本では保育園・幼稚園がそれぞれ独自のカリキュラムを考え、保育を行なっているということ。

各施設の特徴を強みにするのではなく、子ども・利用者にとって保育園からの高齢者施設の継続したテーマがあると、見通しを持った取り組みが出来るのだと感じました。